

2019 年度の教育活動等に対する学校評価

2020 年 3 月 2 日
 学校法人堀口学園
 幼保連携型認定こども園
 昭苑こども園

1. 教育・保育の方針と目標

～未知なる子どものあらゆる可能性の開花をめざして～

昭苑こども園は学校法人堀口学園の創設理念である「神を愛し、自然を愛し、人間を愛する」というキリスト教精神と、「自分が神に愛されるように、あなたもあなたの隣人を愛しなさい」と聖書に記された隣人愛の教えを継承しつつ、モンテッソーリ保育を取り入れ、幼保連携型認定こども園の教育保育要領に則り、乳幼児の達成課題を年齢別・発達段階別に編成した保育プランやカリキュラムを日々の教育・保育の中で実践していきます。

～こんな子どもを育てたい：心あそび、カラダよろこぶ昭苑こども園の子どもたち～

5つのH（Health, Hand, Head, Heart, Harmony）を大切に、歌って踊っていつも元気な子、何にでも興味をもつ一生懸命な子、人の気持ちがわかるやさしい子、個性豊かで楽しい子

2. 2019 年度の重点課題（事業計画）

- I 教育保育方針 ①昭苑こども園移行の意味を全職員で共通に認識する
 ②昭苑幼稚園における質の高い幼児教育を継承する
- II 組織運営 ③質の高い教育と保育を支える職員の処遇改善を図る
 ④質の高い教育と保育を支える職員の定着を図る
- III その他 ⑤しょうえんこどもこそだてルームとの連携
 ⑥昭苑学童クラブとの連携

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価は S(90 点以上)、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上：合格ライン）、D（50 点以上）、E（50 点未満：手つかず項目）の 5 段階とする。

評価項目	具体的な取組		自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	こども園としての反省と改善策	評価	学校関係者の所見とアドバイス
I. 教育保育方針	昭苑こども園移行の意味を全職員で共通認識する	共通認識のためのツールを作成と実施	B	・職員だよりのリニューアルし、	B	・全職員の共通認識に向けてのシステム構築の為の書面告知だけでなく、さらなる試行錯誤と改善が望まれる。
		事前決定・事前周知を心掛ける	C	各職員の専用ラックを設ける等	B	（書面配布日の周知、口頭伝達、短い打ち合わせ、園だより等のグループ毎の読み合わせ、スマホ、インカム利用等）
		末端までの園内情報の浸透を図る	D	の配布方法の改善で全員周知を図ったが改善に至らず。 ・昇降口への掲示を試みたが末端までの浸透は不十分。	B	・上から下への情報伝達だけでなく、下からの吸い上げも含めた双方向のコミュニケーション体制の構築が課題。 ・乳児棟と幼児棟の職員の交流、連携による壁の解消がこども園移行の共

						通認識のカギになると思われる。 ・創設者である堀口昭子前園長の一周忌に合わせて発行された記念誌「幼な子に仕え、幼な子を愛し、幼な子と共に」の継続的な学びが必要。
	昭苑幼稚園 の質の高い 幼児教育を 継承する	質の定義を明確化する 質の高い教育保育のための研修計画の作成と実施	C	・新学期研修で記念誌製作を作成し、その後も継続的に研修課題としたが園内での継続的周知が不十分。	B	・幼児組の普段の保育の様子がもっと保護者に伝わるような工夫が望まれる。行事ダイジェストの周知が必要。 ・昭苑の行事での経験は子どもたちにとって宝物。是非継承して下さい。
		保護者の声を生かした外部へのPR				
		幼児の自園調理給食の提供を実施する	A	・10月より移行済。満足度は高いが運搬配膳に課題あり。	A	・保育の質の向上を考える際、まず基本的なことを全員ができるように。それから各クラスに数名いる「気になる子」への対応を重視し、該当保護者と話し合いを個別連絡帳や面談等で深めていくと良い。 ・「気になる子」への対応は先生側に余裕が必要。子ども一人ひとりの多様性を認め、お互いが助け合う保育を目指しつつ、他の人に迷惑をかける乱暴な言動や行動についての線引きが必要。 ・園の特徴や改善策がちゃんと伝わるように保護者への情報周知、外部へのPRのさらなる工夫が望まれる。 ・給食は好き嫌い矯正のため魚料理を増やし、小学校へのスムーズな接続につなげてほしい。 ・配膳等は保護者のボランティアを募っても良い。
		乳児棟（園児・職員）と幼児棟（園児・職員）の定期的交流を図る	C	・合同礼拝、英語指導、朝の体操見学等で継続的に交流。終朝礼の弾力化は手付かず。	B	
II. 組 織 運 営	職員の処遇 改善を図る	休憩時間取得の徹底	D	・休憩取得のための配置を改善したが年度途中の産休退職や途中入園（乳児）の為、当初の予定より休憩や有給休暇が取りにくいままになっている。 ・土曜シフトの代替休暇の消化がたまりがちで職員の負担感解消につながっていない。	C	・休憩中の職員には電話対応させない等、園として休憩をバックアップすると良い。 ・休憩や有給消化、土曜出勤振替は園として強制力を強めた方が良い。 ・土曜保育や連休中間の出欠確認をもっと早く保護者にお願ひし、職員の計画的な有給休暇につなげると良い。 ・休暇をとる理由を園として明らかにして伝えると良い。
		有給消化率の向上	C		C	
		年間休日 120 日実施に向けての改善	C		C	

	職員の定着を図る	働きやすさと働き甲斐を実現、実感できるようにする	C	・新学期研修やホームページの改訂によりお金やキャリアアップより子どもの成長が第一の生き甲斐であることは定義できたが、園内での周知方法が課題。 ・会議での研修充実はわずかながら前進。継続が望まれる。	B	・保育現場の大変さ（特に1歳児）をもっと保護者に伝え、朝の持参物の仕分けだけでなくもっと保護者の協力を得れば、職員の負担軽減や職員のやる気や働き甲斐につながるのではないかと。 ・新人一人で抱え込ませない。周りが複数で対応する。居場所や役割を与え、任せてフォローする事で、色々なことに耐えて成長できると思います。 ・人手不足ですが更なる工夫で改善して下さい。学生アルバイト等の利用も検討してみてください。 ・酒々井に住み昭苑に出会えたことに感謝。これからも応援しています。
		園長と職員面談の実施回数や方法の改善	D		C	
		職員の定着と保育の質向上につながるよう会議の持ち方を改善する	C		C	
Ⅲ.その他	しょうえんこどもこそだてルームとの連携	幼児・小学生の兄弟姉妹と来所した家族への対応を図る	C	・長期休業中の提携イベントや学童夏祭りの地域参加呼びかけなどの新規試みの実施が好評だったが、法人内での連携に課題が残る。チラシ内容の曖昧さや周知不足には改善余地が多々あり。 ・こそだてルームにおける町外利用者の容認について周辺市町村との連携が課題。	B	・園の子育て支援の取り組みや、子育てルームのイベント内容が昭苑こども園の保護者にちゃんと伝わっていないので再度、周知した方が良い。 ・町の広報掲載を利用してもっと広く宣伝すると良い。駅、学校、商店街等。 ・夏休みの学童無料体験は継続してほしい。 ・学童の長期休業中のお弁当持参は保護者の負担になるので給食注文の継続をお願いしたい。 ・窓口を一つにしぼった方が連携が良くなり保護者としても助かる。 ・法人内の情報共有の仕組みを確立して連携をスムーズにして下さい。 ・酒々井町に引っ越してくる前から子育てルームの存在を知っていたら役立つので、他市町村とも連携してほしい。
		他市町村在住者の利用についての対応を町と協議する				
	昭苑学童クラブとの連携	学童保育を地域の子育て支援に役立てる	C		B	
		しょうえんこどもこそだてルームとの連携（特に長期休業中）				